

視点

病床機能と 医療機関機能

新たな地域医療構想の検討会で、今の構想は機能別病床数の割合合わせになりがちで医療機関の役割分担・連携につながりにくいとして、病床機能区分を維持しながら、高齢者救急の受け皿となり地域への復帰を目指す機能、在宅医療を提供し地域の生活を支える機能、救急医療等の急性期医療を広く提供する機能といった医療機関機能を報告することが提案された。

地域医療構想の本質は、機能に応じた資源投入で提供体制を効率化することであり、ケアミックスも多いなか、資源投入の単位は病院でなく病棟であって病床機能区分の維持は当然だ。現在の回復期は、高齢者救急の受け皿として、急性期をあわせもつ新機能とすることも提案された。

現在の回復期は、当初ポストアキュートとサブアキュートをあわせもつ亜急性期とされていたが、医療団体の意見で、資源投入の問題に病期を持ち込み、ポストアキュートは回復期、サブアキュートは急性期と分けたため、地域包括ケア病棟が両者に分かれる等わかりづらいものになった。両者をあわせもつ新機能は、亜急性期への回帰とも映る。地域包括医療病棟や地域包括ケア病棟がどの機能に該当するか、診療報酬との紐づけも簡明にすべきだ。また、病棟患者全員が同程度の資源投入という病床必要量の推計は、主な機能を報告する現状と乖離して当たり前で、整合性を回復すべきだろう。

医療関係者は従来から病院の役割分担を主張していた。医療機関機能で病院自体が地域で果たす役割を協議・共有し、それにふさわしい各病院の病棟構成を検討することで、役割分担・連携と効率化が促進されることを期待したい。

社会保険旬報

目次

No.2945 2024年11月11日

視点

病床機能と医療機関機能 3

座標

新資本主義実現会議が重点施策

経済財政諮問会議が石破政権で初開催 4

中医協が6年度改定調査項目を了承

小中高生の自殺者が500人超 5

インタビュー

社会の変化に対応した

協会けんぽの運営を

財政運営「中長期的なスタンスで」

全国健康保険協会理事長 北川博康 6

論評

我が国の医療DXは

どうして躓いたのか

阿南誠 12

ジュネーヴからの便り^⑮

国連総会

中谷祐貴子 .. 22

潮流

国保保険料の賦課限度額109万円に 23

健保連が6年度全国大会を開催 24

美容医療の規制求める意見相次ぐ 28

医学部「臨時増員」了承も懸念残る 30

薬機法改正に向け販売制度見直し 32

4年度国民医療費は46兆6967億円 34

日医が第3回医師会活動シンポ 36

資料

令和4年度国民医療費 39

雇用・労働の動き 41

編集室・ワードカプセル 42